

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所 新健康協会
発行人

〒813-0001
福岡市東区唐原6-7-1
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十六年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

悪に対する憤激

つくづく現在の世の中を見ると、どうも今の人間は悪に対する憤激があまりに足りないようだ。例えば、悪人に善人が苦しめられている話など聞いても興奮する人は割合少ない。察するに、悪に對しいくら憤激したところで仕方がない。しかも別段自分の利害に関係がないとしたら、そんな余計な事に心を痛めるより、自分の損得に関係のある事だけ心配すれば沢山だ。それでなくてさえ、この世知辛い世の中は心配事や苦しみが多過ぎる。だから見て見ぬふりをする。それが利口者と思うらしい。しかも世間はこういう人をみると、世相に長けた苦勞人として尊敬するくらいだから、それをみて見習う人も多い訳である。また政治が悪い、政治家や役人が腐敗している。社会の頭だった人が贈収賄、瀆職事件等でよく新聞などに出ており、特に近来非常に犯罪が増え、青少年の不良化等も日本の前途を思えばこのままではすまされぬし、役人の封建性も依然たる有様だし、民主主義の履き違いで、親子、兄弟、師弟の関係なども誠に冷たくなったよ

うだ。税の苛斂誅求も酷過ぎるし、民主主義も名は立派だが、実は官主義に抑えつけられて人民は苦しむばかりだ。その他何々等々数え上げれば限りのない程、種々雑多な嫌な問題がある。これらことごとくは勿論、社会的正義感の欠乏が原因であるに違いないが、何といっても前述のごとく、いわゆる利口者が多過ぎるためであろう。しかしよく考えてみれば、そういう社会になるのも無理はない。いつの時代でもそうであるが、殊に青年層は正義感が旺盛なもので、悪に対する憤激も相当あるにはあるが、まず学校を出て一度社会人となるや、實際生活にぶつかってみると意外な事があまりに多く、だんだん経験を積むに従って考え方が変わってくる。なまじ不正に興奮したり正義感など振り回したりすると、思わぬ誤解を受けたり、人から敬遠されたり上役からは煙たがられたりするので、出世の妨げともなりやすいという訳で、いつしか正義感などは心の片隅に押し込めてしまい、実利本位で進むようになる。こうなると、ともかく一通りの処世術を会得した人間という事になる。これらも勿論悪いとはいえないが、こういう人間があまり増えると社会機構は緩み勝ちとなり、頹廢気分が瀰漫し墮落者、犯罪者が増える結果となる。現在の社会状態がそれをよく物語っているではないか。そうして私の長い間の経験によるも、まず人間の価値を決める場合、悪に対する憤激の多寡によるのが一番間違いないようである。何となれば、悪に対する憤激の多い人程骨があり、しっかりしている訳だが、しかし単なる憤激だけでは困る。ややもすれば危険を伴い勝ちだからであ

る。事実青年などがとかく血気にはやり、人に迷惑を掛けたり、社会の安寧を脅かす事などないとはいえないからで、それにはどうしても叡智が必要となってくる。つまり憤激は心の奥深く潜めておき、充分考慮し無分別なやり方は避けると共に、人のため社会のため、正なり善なりと思う事を正々堂々と行うべきである。これについて私の事を少し書いてみるが、私は若い頃から正義感が強く、世の中の不正を憎む事人並以上で、不正を見たり聞いたりすると憤激やみ難いので、その心を抑えつけるのに随分骨を折ったものである。しかし、この我慢はなかなか苦しいがこれも修行と思えばさほどでなく、また魂が磨かれるのも勿論である。この点今日といえども変わらないが、これも神様の試練と思つて忍耐するのである。このような訳で、理想としては不正に對し憤激が起るくらいの人間でなくては役には立たないが、ただそれを現す手段方法が考慮を要するのである。即ち、いささかでも常軌を失したり、人に迷惑を掛けたりする事のないように、くれぐれも注意すべきで、どこまでも常識的で愛と親和に欠けないよう、神の心を心として進むべきである。

浄霊体験記 2ページ 3ページ

- 不安の日々から 安心の毎日へ…
- 体験して分かる 浄霊の有難さ
- 死をも考えた… 人生が一転
- 五年間の喉の痛み 五日間で楽に…

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

貧血・肝炎

不安の日々から
安心の毎日へ…

鹿島支部
松本八重子(71)



私は二十七歳の時、長女を帝王切開で出産し、その時の輸血で一カ月後に肝炎になり、目が黄色く黄疸が出て四カ月間入院しました。退院後はお医者さんから「妊娠してはいけない、働いてはいけない」と言われました。肝炎が治らず、嫁としての働きが出来ないことを悩み苦しみ、又大量の薬を飲まなければならぬことがとても不安で大変な日々を過ごしていました。退院後すぐ、私の様子を見かねた親戚の方が「浄霊という方法があるから試してみたら」と勧めて下さいますので、早速、新健康協会を訪ねて

ました。

最初はこれで体の状態が良くなっていくのだろうか…と思っていました。が、浄霊を受けていくと、日増しに体が軽くなり、楽になっていきました。これは素晴らしいと感じた私は、その時の状態が気になりましたので、浄霊を受けて一カ月経った頃、再度病院に行き、肝炎の検査を受けてみました。すると、今まで苦しんできた貧血と肝炎が治っていたのです。この結果には大変驚きました。いつもは病院で肝炎の数値を注意されており、その度に恐い思いをしてきたので、まるで夢のよう…有難くて感謝と喜びで一杯でした。

それから数年後に次女と長男を授かったのですが、この時は帝王切開をせずに済みました。本来なら、長女の時に帝王切開をしていますので、自然分娩はなかなか望めないことですが、浄霊を受けたおかげでしょう…帝王切開をせずに済みました。本当に感謝しかなく、心から嬉しく明主様に感謝申し上げます。

五十八歳でメガネ不要に

私は二十歳の頃から視力が段々落ちていき、四十年近くメガネを何度も作り替えるような状態でした。そのため浄霊を受ける時は、眼もよく浄霊を受けていました。

平成二十三年の十月、車の免許更新のため免許センターで視力を検査していたところ、センターの方から「メガネを外してみてください…」と言われ、恐る恐るメガネを外してみました。なぜならこの時まで私の免許証は「メガネが必要」となっていたからで

す。不安になっている私にセンターの方は「落ち着いてよく見てごらん」と言われ、ゆっくり見てみると視力が良くなっていました。私は見ることがとても嬉しく、五十八歳でメガネ無しで運転免許がもらえました。これには私も家族もびっくりしました。若い頃は随分苦しんできましたが、年を経るに従い元気になり、こんな有難いことはありません。様々な悩みをお持ちの方々にも幸せになつていただきたくて体験談を書かせていただきました。誠に有難うございました。(佐賀県鹿島市)

浄化作用

人間には体内の毒素(=汚物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素がハナやタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

胸の強打・飛蚊症?

体験して分かる
浄霊の有難さ

広島支部
吉野ゆきみ(58)



私は、浄霊のことは母から聞いて知っていたのですが、そのままになっていました。

それから二十年後、知人から「新健康協会というところが広島にあつて、浄霊を受けることも出来るから行ってみたら」と勧められました。私は知人が言うことなら大丈夫!と思い、新健康協会に通うようになりました。そしてこの協会で浄霊を続けたいと思いい、平成二十五年十一月に入会しました。

私は島根県に住んでいますので、車で四時間以上かけて広島支部に行つていますが、広島支部の皆さんは皆、親切で温かく、優しさと奥床しさを肌で感じる事が出来、入会させてください。良かったと感謝の気持ちでいっぱい。日々明主様の御守護を頂いておられますので私の浄霊体験の一部をお伝えします。

令和四年十月の中頃、立ち上がろうとした瞬間つまずいてしまい、自分の膝で右乳の下を強打してしまいました。激痛で息苦しく、夜中でしたが支部に御守護御願いの電話をしました。すると、御守護御願いをした途端に体が軽くなるのを感じました。また、痛めたところを自分で浄霊していると、段々と痛みが落ち着いていき、浄霊をしながらいつの間にか眠ってました。

翌朝起きてみると、昨夜の痛みはどこへ行ってしまったのだろうか…と思える程不思議と楽になり、仕事も休まず行くことが出来ました。本当に感謝しありませんでした。



令和五年二月、三日間熱が出た後、左目の中に髪の毛が入っているような違和感があり、目を何回こすつても取れず、職場の人に話すと「それは飛蚊症じゃない?」と言われました。支部にお参りした時にお聞きしましたら「頭にある毒素が浄化作用で目に現れているのでは」と教えてもらいました。支部で浄霊を受けると少し楽になりましたので、その後も自分で気がかけて浄霊を続けました。すると毎日起床する度に目の下に白いカスのような物が沢山出てきました。痛みもなく過ごさせて頂き、本当に感謝しかありませんでした。おかげ様で徐々に目の具合も良くなり、二カ月もしないうちにすっかり良くなりました。私は改めて浄霊の素晴らしさを感じました。日々こうして明主様の御教えを頂き、浄霊を受けられることが本当に有難いです。これからも感謝をもって過ごしていき、たくさんの人に浄霊をお伝えしていきたくです。誠に有難うございました。(島根県松江市)

自然農法

自然農法体験談



山鹿支部
小池祐生 (69)

私が自然農法を実行している「小池愛農園」では水稲の他に小麦、大豆、サツマイモを自然栽培で育てています。

令和5年9月下旬、サツマイモ畑の草切りに出かけたところ、ところどころサツマイモのうねを掘り返した所がありました。最初はアナグマの仕業かなと思っていたのですが、翌日は範囲が広くなり芋を食べた後が沢山見受けられるようになり、初めてイノシシの被害と分かりました。そこで桃色のテープを張り巡らしたり、夜中にラジオ放送を流したり、色々試しましたが、すぐに慣れて効果が続きませんでした。稲刈りも控え大変な時期なので、今年は仕方がないかなと諦めかけた時、同日に3名の方から「今年のサツマイモはいつ頃から販売しますか?」とお尋ねがあり、待っておられるお客様のためにも、守ってあげないといけないと思い直しました。

最初は電気柵で食害を避けようと思いましたが、ところが販売店では資材が全部

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

揃わず、2週間程待つことになりました。仕方がありませんが心配でもありません。そこで考えたのが感謝の響きでした。

私もイノシシさんもサツマイモさんも同じく命を頂いて生かされていてミクロの次元で考えると一緒だと思ひ、私が一番リラックスできる入浴時に、畑のサツマイモさんとイノシシさんを思い浮かべながら「ありがとう」と声を響かせるように発し続けました。

10アール位の畑なら1週間ほどで食べ尽くすと聞いていましたので、資材が揃って畑に出かけた時、全滅も覚悟をしていました。ところが、サツマイモ畑に着いてみると畑の際には糞もあり、掘り返した跡もありましたが、サツマイモ畑には一歩も入っていませんでした。奇跡が起ったのです。感謝をしながら、半日かけて電柵を張り巡らしました。稲刈りも始まっていますので、その後は時々見に行きましたが、畑は無事でした。

おかげ様で翌月から収穫も始められ無事に終わることが出来ました。

農薬・肥料を使わなくても出来る自然栽培ですが、もう少し深い奥の大切なものに気付いたような気がしました。

私の作る作物で世の中を癒していきたいから幸せだと思います。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

堅山南風 《天桃小禽図》

墨色の葉が占める画面の中で、果実をじゅんわりと染める鮮やかな桃色がまず目を惹きます。奥の枝には小鳥がとまり、葉の間から細やかな羽の模様を覗かせていて、さらに良く見ると枝や葉の形も色も多彩です。桃と鳥という限られたモチーフが丁寧に描き出され、豊かな空間を生み出しています。

本作を描いた堅山南風は、明治二十(一八八七)年熊本市に生まれ、二十二歳で上京、第七回文展で初入選すると同時に二等賞を受賞し注目を浴びます。これを機に横山大観に師事し、大正・昭和の日本画壇の中心的存在として、九十三歳で没するその直前まで精力的に活動しました。初期には歴史画を学び、文展受賞作《霜月頃》は櫨の木の下、実を収穫する風景を描いた屏風仕立ての大作で、その後写生の基本に戻り、次第に花鳥画をメインに手掛けるようになります。また晩年にかけては肖像画や静物画、人々の生活を描いた風景人物画など幅広い画題に取り組みますが、「知足安分」の画境を展開したと評される南風を支えていたのは、身近にある自然や生命と向き合う写生でした。

桃は古来、魔除けの力のある神聖な果樹とされ、それを示す故事には枚挙にいとまがありませんが、本作のタイトルに「天桃」とあるのは、西王母が持つ桃が不老長寿をもたらすという伝説が匂わされているのだと考えられます。と云っても特別に神秘的な場面としてではなく、あくまでも日常見ることが出来る、実際にある光景にその尊さが込められているのです。

今なお私たちが祝う桃の節句、雛祭り、古代

中国で行われていた、三月の初めの巳の日「上巳」のみそぎの風習にまで遡ることできるそうです。それが日本に伝わり、奈良・平安時代には三月三日に川辺に出て祓(はら)えを行い、曲水の宴(まことのみ)を設けるといふ朝廷や公家の年中行事となります。曲水の宴とは、上流から流される杯(は)が自分の前を通り過ぎる前に詩歌を詠(えい)むというものです。それが人形流しやひいな遊びと組み合わせられて、長い時間をかけて今の形になっていったようですが、源流は儀礼や伝説、そして風流につながるものだと思うと、生活の中で目にする四季折々の自然の味わい方も深まるように感じられます。

解説 松田愛子



清明会館

「暮らしと花鳥風月」後期展
期間…1月7日(日)～5月14日(火)

※清明会館お問い合わせ ☎092(661)1535

健康新聞についてのお問い合わせは
(092)661-1531まで